

「城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する
関係住民からの意見を聴く場」

議 事 録

日 時： 平成 28 年 2 月 21 日（日） 10：00 ～ 11：40

場 所： 神埼中央公園体育館（会議室）

【発表番号 1 番】

おはようございます。

私、この体育館の北側にありますパインピア団地に住んでおります●●と申します。よろしく願いいたします。

私はですね、平成 21 年 7 月の洪水時に城原川にいました。洪水時に野越しから溢れた時なんですけど、あの時が確か時間雨量 50～60 ミリ程度の雨だったかと思うんですけど、初めて見た光景で家より高いところに川の水が流れていまして、堤防が崩れたらどうしようという思いで、すぐに家に帰りまして家族を、あの時は自主避難でしたので避難をするように呼びかけました。避難をさせる途中にですね、上流の野越しから水が溢れて、この溢れた水が家の中に入ってくるかもしれないと思ひまして、私も避難をしようと思っていたんですけど、周りの状況を見ておきたかったし、ただ一つ言えるのは恐ろしかったです。川の水が何と言ったら良いですかね夢に出てきました。ゴーっという音。恐ろしかったです。普段は城原川の水位ってほとんど水位がないんですよ。でも、あそこまで水位が上がるという天井川の恐ろしさを目の当たりに致しまして、それでゆくゆく調べていきまして私の団地の住民の方と相談いたしまして、相談というか私が怖かったという話をしまして、団地の方で防災組織を住民だけで組織ができあがりまして、それでまた城原川の事を色んな事を調べていったら、この辺で雨が降ってなくても脊振に雨が降った場合、その水が全部流れてくるんですよ。伊福とかあの辺に降った雨が。この辺が降ってないから大丈夫だという方が非常に多いと思うんですよ。私はこういう怖い経験をしたので、色んな事勉強して住民の方に恐ろしさという、当然景観も大事です。大事ですけど今は人命、財産を守る方が大事かと思ひます。

去年、鬼怒川の水害もありました。誰も皆さん被害が起きるっていう自然災害の恐ろしさ、地震なんかもそうですよ。絶対うちは大丈夫と思われる方が多いので、やっぱりそれを防いでもらう治水対策をきちっとやって頂いて、安心、安全の暮らしを私はしたいし、今これだけ異常気象なんで先ほど言いました 50～60 ミリの時間雨量の雨、あれがもし 100 ミリの雨だったらどうなんでしょうか。今のこの時間雨量 100 ミリって、当たり前のように降っています。当たり前と言ったらおかしいですけど、よく聞きます。時間雨量 100 ミリって。そんな雨がもし脊振に降ったら

大変な事になると思いますので、洪水時の水位を下げ溢れないようにして頂きたい。そのための治水対策を是非お願いしたいなと私は切なる願いを込めます。

私は一人でも犠牲者を絶対にこの神埼、また日本から一人でも犠牲者を絶対出ちゃいけないですよ。人の命は誰も補償できません。だから、それを守る対策を私をお願いしたいなと思います。

すいません。ありがとうございました。

【発表番号 2 番】

みなさん、おはようございます。

私は城原川ダムの水没予定地区の住民として、今回の「城原川ダム事業の検証結果」に関わり、次の3つの観点から意見を述べさせていただきます。

まず一つ目は、私たち水没予定地区では45年前の1971年に治水・利水ダムとしての予備調査が始まり、2003年には国交省が治水に絞った案を提示、2009年には民主党の政権下で、ダム事業の凍結が表明され、城原川ダムも検証ダムの一つとなり、今日まで約40数年という半世紀近い歳月を通して翻弄され続けてきました。

その間、家屋の改修や道路整備などの生活環境も悪化し、他の地域と比較しても、一歩も二歩も振興が遅れ、将来の生活設計さえもままならない不安な状況のもとに、高齢化の時代を迎えることとなりました。

昨年、就任早々、山口県知事にも現地視察をしていただきました。

その意味からも、一日も早いダム建設を強く切望するものです。

二つ目は、当地区は、脊振山系から流れる城原川と倉谷川に挟まれ、周囲を険しい山あいの急傾斜地を間近に控え、豪雨時の土砂災害をはらんだ不安な危険区域でもあります。

ダム計画においては、過去には、水没予定地区の住民の間でも、賛否両論が交錯し、ギクシャクな感情のもつれもありましたが、その後は、「神埼町や千代田町そして佐賀市など、下流地区住民の生命・財産など、安心・安全な生活を守るためには、私たち水没予定地区の住民として、協力しなければならない」との強い思いから、住民の意思が一つにまとまり、ダム事業への理解と期待が高まっています。

その点からも、一日も早く、ダム建設を強く要望するものであります。

三つ目は、国の事業見直しの対象ダムとなっている城原川ダム計画をめぐる、国交省と流域自治体との間で検証が進められている「2回の準備会」と「3回の検討の場」、そして先日の「学識経験者からなる意見聴取」など、全てを傍聴させていただきました。

これまでに「河道改修と組み合わせた流水型ダムすなわち穴開け式ダム」と「その他の6つの代替案」との比較検証において、「安全面」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」などの項目毎での総合評価において、「ダム案が最も有利な治水案の方法である」との評価を示されたこと、並びに先日の学識経験者からの「周囲の生

態系や景観にも配慮されてのダム建設を」との、建設への多くの方々からの理解が示されたことは、私たち水没予定地区住民にとっても、胸をなで下ろす思いとなりました。

この点からも、ダムへの今後の早期実現を強く望むものであります。

もし、「河道掘削案」や「野越しや遊水地などを利用した他の代替案」が引き続き議論の対象ともなれば、私たちは、また何十年先まで翻弄され続けるかわかりません。

もう二度とこのような苦渋を味わいたくはありません。

今、やっと一部遅れを取り戻すべき地域振興対策案を図ってもらっていますが、40 数年という歳月はあまりにも長すぎた感を憶えずにはられません。

どうか一日も早く、ダム計画への建設が実現されることを、水没予定地区住民一同、強く国、県、市へ切望するものです。

以上で、水没予定地区住民の私の意見とさせていただきます。

【発表番号 3 番】

あの、遅れて入ってきて失礼をお許し下さい。

まず、1 番と 2 番の方のお話聞いて、本当に私も田手川の川の横に住んでましたから、毎年大水で心配してました。命の危険を感じてました。40 年以上待たされた脊振の方々の大変さをよく分かります。それで、胸にしっかり留めてお話しさせて頂きます。

神埼のもんけん、神埼弁が出ます事をお許し下さい。お分かりにならないところもあるかも知れませんが、分からない時は仰って下さいませ。標準語に直します。

まず私は、国土交通省、当時建設省でしたけど、厚く厚くお礼申し上げます。それは、吉野ヶ里遺跡を国営公園として国際的な公園にしてくださった事です。文化庁のお金が足りなかったから建設省が国営公園にして下さいました。中国や台湾や韓国や日本の徐福会がイコモスに働きかけて、イコモスは世界遺産の準備をして下さっていると聞いております。日本の考古学者もそうでございます。そいぎ、1 番の方の命、私は保健所長やったけん、本当に命なんです。そいぎですね、命が助かるかっていうと私が県議会議員を 2 期 8 年やらせて頂きましたけん、知事に尋ねました。一般質問で。城原川ダムを造るぎ洪水が起きませんかって言ったら、起きないことはないと仰いました。それから脊振の方には 40 年以上待たせたけん、どうぞ人間は過ちを犯すものです。だから命さえ救われるようにすぎよかばってんですね、40 年以上も待たせたという事は建設省はダムを決められた事を責めるんじゃないで、それはもうみんなに分かってあげて 40 年以上待たせた方に補償をしてあげて頂きたいのです。これが政治なんじゃないでしょうか。

そして、一番はじめに私が県議の時に案が出たのが、高さが 100m、長さ 500m でした。貯水型のダムでした。それが私ビックリして、あそこは富栄養化でダムの

水が腐りますと申しました。佐賀県のダムの 8 割近くがアオコで腐れております。川下は癌が増えます。農業用水としても駄目ですと、そして吉野ヶ里からダムの壁が見えて見たんなかと申しましたら、次の県議会で高さ 25m 減らして 75m にして、水のアオコが出らんごと穴をほがすと。穴あきダムになりました。京都大学の●●教授とおっしゃいましたかね、穴あきダムの弊害を講話の中にずっと主張しておられます。ですから私はパイネピアというんですか、あそこの方々の命を守るためにはダムができあがる前に集中豪雨が来るかもしれません。だから知恵を絞ってですね、天井川だから危ないなら早く川工事をして頂きたい。ダムは東京や大阪の、あんまりこれは大きく言われんばってん、ゼネコンの問題になってしまいます。川工事は地元の業者がお出来になります。そして、とにかく急いで命のあれに、すぐ出来るんじゃないでしょうか。お金が安いから城原川ダムと仰いますけど、お金には換えられないものがあるんじゃないでしょうか。そして、私どもは洪水が毎年出るからと言って田手川の川の脇ば、退け退け退けとって思い出の家が無くなってしまったんです。それから城原川と田手川、千歳では千歳村、千代田町では一緒になって、それから洪水で無くなったんです。あれが 40 何年でしたでしょうか。それで思い出の家は無くなりました。もう本当に悲しいです。だからこういう悲しみをダムの方々だって本当はそこにおいて、先祖父祖伝来の土地において、そして補償してもらいんさら、それが一番お幸せなんじゃないかと思うんですね。それで治水のために城原川ダムと仰るなら私たちの千歳村、千代田の直鳥橋から下、ずーとたくさんある所、復元して頂きたいという思いが募っている方々が多い事を申し述べます。そして脊振にはすごい文化が眠っております。佐賀県で初めてできた松尾建設が赤字覚悟で造ってくださった。松尾組です当時。あの発電所は、これまた近代建築の国宝級だと思うのです。政所もあり政治の中心です。神埼郡は国のまほろばです。何とか命を救って地権者のお気持ちも満足なする方法を考えて下さいますように伏してお願いいたします。失礼します。

【発表番号 4 番】

どうも先程お側の方が仰られましたパイネピアに住んでおります●●でございます。パイネピアの方ありがとうございます。ご心配頂いて。

実は私どもの提案としまして、水利用の問題という事で提案していました。最近の皆さんご存じの鬼怒川の問題も含めてもそうですが、4、5 年前の矢部川、それから山国川、あの耶馬溪、私も 2、3 度足を運んで見に行きました。今の水害というのは上流部で起きるんですよね。矢部川の星野村でしたかね。星野村の町が浸かった、水が道路を走ってるんですよね。中流部ですともう山が滑って自然ダムになって、それから県道の上を 3m か 4m、水がいつてるんですよね。本来であれば、上流の方は水害に遭わないという観念があるのですが、山国川もそうですけど、耶馬溪の青洞門が浸かったんですよね。で、その水が道路を横断して家屋だとか宅地

に入って大変な災害が発生したのは記憶に皆さんあると思いますけども、私はそれを考えてみますとこの一番危険な場所は城原川の中でも的（いくわ）地区ですね。あのせった所、21年の野越しの水が越えたときに、その後、見に行ったのですが、ちょうどこのところの川に1mぐらい橋が架かっているのです。それにやっぱり草木がひっかかってまして、ぎりぎりまで水が来たんだなと思いました。もし、先程うちの団地の彼が話したんですが、もし100ミリきつとたらですね、一番怖いのはあの的地区から水が上がって、県道を走ったらどうなるだろうかと、私いつも強く想像します。もしあったら、あの仁比山神社辺りを全部流してしまうんじゃないかと、そのためには、水利用の問題も大事ですけど、やはり早急にダムを造って対策を早急にやって頂きたいと思います。それと私20年前にここに住んだんで、その前は来る時、来る前は城原川ダム建設ということで、どんどん進んでいたんですよ。その当時、尽言して途中で首長さんがダム反対という人がいらっしやっいました、これはおかしなことになったなと思って私は個人的に、うちの団地のものは●●君を含めて城原川ダム建設推進ということで当時署名をずいぶん集めて、その当時の国土交通省の方に提出して、佐賀新聞社の方も取りあげて頂いたんですけど、そういう運動もしました。やはり、この最近の雨の状態、エルニーニョ現象の状態から見ると大変な災害がこの神埼でも起きる可能性が十分踏まえてますので、我々、私たちじゃなく専門家の方がダムを造ってやらんといかんですよと、野越しの対策は駄目ですよと言ってるわけですから、そういうことは専門家の方に任せて素人の方があれがいい、これがいいとかじゃなくて、専門家の方に任せてやるという事は一番大事なんです。そういう面で色んな野越しを古い江戸時代の話みたいな事いう人がたくさんいるみたいですけど、そんな馬鹿なことを言ったら笑われますよ。はっきり言って。もし言われる方がおったら。だから私たちは早急に来年度からでも、多分私も70になりましたんで、15年かかるといってましたので多分、ダムが出来ても死んでいると思いますけど、早急に我々孫のためにも、この建設の推進を国土交通省の方に益々お願いしたいと思います。

私のお話を終わります。以上です。

【発表番号5番】

千代田町団地というところに40数年前引っ越してきました●●といます。

今4人発表していただいて、とても良いことを言っていただきました。私も大賛成です。

ただ、昔からよく水がくるパインピアのところに、「ああいうふうなところによく建設を認めたな」「どうして認めたんだろうか」という疑問があります。一般に入ってくる人は、何にも知らんで入ってくるからですね。

私、ここで4点、話をさせてもらおうと思いましたが、5分間でうまく話できるかどうか。ひとつは、ここの計画の一番大切なこと。二つ目は環境、生き物のこと。

まず一つ目ですが、ダムの場合 1/150 とか 690m³/s の流れと言われますが、私たちが生きているのは大昔から千年万年、大昔からいろんなことがあっています。そういうものが来年・再来年、ダムが出来てからそういう災害が来たときに、ダムが壊れてしまうんじゃないか。壊れるようなダムだったら一番危ない。造らなくて、大昔からの洪水のようなものであればたいしたことのないものになります。

国土交通省が言っていることをいろいろインターネットで勉強すると、「ほう」ということばかりです。人間がいるところで災害があったら「災害」と。人間のいないところでの災害は「災害」といわないよ、というふうな感じのようです。

私は、とんでもないことが起きたときに絶対危なくないようなものにしてほしい。

こういうふうに考えましたのは、原子力発電所で将来のことを考えないで、とんでもないこと、例えば玄海原子力発電所の 1 号機が「脆性破壊」によりボーンと爆発する、その現象に、びっくりしたことは日清戦争、日露戦争の大昔に鉄砲や大砲を使ったときその場で爆発したそうです。どうしてかわからない。これは「脆性破壊」ですが、これが原発の方で数百度で運転されているとき、もし起きて、大変だということで水をかけたら、簡単に百度以下にしようとするから爆発します。

それと同じように絶対あぶないようなものは造らない。危なくないようにするということが大切と思っております。

二つ目ですが、生き物についてです。

生き物について、田手川で友人をずっと案内して回りました。

そのときに、今まですばらしい環境、大昔からのが無くなって、可動堰になっておりました。からかみ堰、それともう一つ上の堰です。

ようと見てこんだったんで、後で「あそこに魚道がある。」と魚道を見に行きました。りっぱな魚道が出来ておりましたが、「これを魚がカニがエビがいろんなものが大丈夫だろうか」と。「これは本当に生物に詳しい人、また地元の人いろんなことを知っている人の意見を聴いて造らないと」、出来て 2 年くらいのもんです。

今度穴あきダムの場合、魚道をつくると言っても問題で難しいと思います。

まず、魚が昇ってくるにしても、下ってくるにしても、「ここが魚道です」と標識がありません。私たちが標識をつくらうとするなら、大きな魚、小さな魚それぞれおられますから、小さな弱い魚がスーときて、「草が生えているほうと上るならどっちがよかね」と上って行って、途中で休み処もあり、上の方でサギなどに食べられないようなところも作ってやる。

計画を立てたら、どのような計画であるか地元の人に知らせ、「そうだね」となるようにしてほしいと思います。

三つ目は費用です。この建設費、まず示された金額で実際に造られたときは、その費用の 2 倍、3 倍かかっていることが普通だそうです。そうするとここで安い安いといわれていますが、とても金がかかるようになったとき、急にやめるのか。今までののは、やめられたことはありません。

ですから、金額、これが一番安いといわれていますが、本当にそうなのか、造っ

てみたら 2 倍 3 倍のお金がかかったという現実があります。

その件についてももしっかり私たちに具体的な計画、そして検討の場で話されていたときに「維持費がとても安い」「たいしたことはない」といわれました。

維持費が安いということは、「土砂も流れてこない」、「コンクリートづくめになっているのか」と勝手に想像しています。今の魚道ではありませんが、生態系にとっても悪いと思います。

私はここでみんなに言いましたが、穴あきダムは理想的なものを造らなければいけません。理想的なものを造ろうとしたら、もっと上の方に、どんなものが来ても大丈夫なような所に造る、そしてこんなふうに造ると、地元の人などにいろいろ聞きながら、そこから考えて理想的なものを造ることが大切だと思います。

私は役所に言ってません。聞きに来られた方と「そうだね」というものを共有することが大事と思ってここに来ました。

ありがとうございました。

【発表番号 6 番】

皆さんおはようございます。脊振から来ました●●と申します。こういう大型事業につきましては、住んでる地区によって様々な利害関係があって、多様な意見があるんだろうというふうに考えてますけども、よりよい合意形成に向けてですね、こういう議論が行われることを、もっと行うべきだというふうに思っております。

まず私たちというか城原川を考える会では 15 案に近いんじゃないかということ、行政と話していると言われたんですけども、まずパインピアの人も言われたんですけども、平成 21 年 7 月の洪水によって、神陽団地が漏水起こって破堤寸前まで行った訳なんです。パインピアも危なかったと思うんですけども、その時の洪水流量が流量観測で大体 450m³/s ぐらい、その時に野越しから出たのが 20m³/s ぐらいというふうに国交省の方で言われてます。もともとですね、昭和 24 年の県の計画では、洪水流量は 450m³/s、そのうちの 120m³/s を野越しから逃すという計画になっていました。つまり、120m³/s 流す予定が 20m³/s くらいしか流れなかったんです。これは、なぜかという、昭和 40 年代の圃場整備に伴って野越しの高さを 1m50cm ぐらい上げて、受堤を外していったという経緯があります。その理由はどういうことか、いろいろ聞き取りをやったんですけども、人によって違いますので理由は分かりませんが、結果として野越しからの逃し水はなくなったということです。平成 21 年に 120m³/s 流れたのであればですね、41cm 計画高水位を超えた訳なんですけども、野越しから 120m³/s 流れてれば計画高水位を下がっていたんだろうというふうに推定されるわけ。ですから、平成 21 年の洪水の経験をですね、もっと検証すべきであろうというふうに思っています。15 案とか 16 案とか見ても、野越しを利用するといっているんですけど、どの高さで計算されているのか、素案の中では見えません。もう一つはですね、5 号野越しなんですけども、右岸側にあ

る野越しです。これは横に受堤が今も現存してまして、その水は横落ち水路に落ちるようになってます。つまり、横落ち水路の横の道が低くなっているんですね。それは横落ち水路に落とすようになっていっているんです。ここは城原川最大の受益面積 318ha の用水路なんです。そこに落として農業用水として利用するようになっていっているんですね。それを周囲堤で囲ってますよね。何で囲む必要があるんでしょうか。こういう案が、本当に野越しというのはどういう機能を持ってどこに流れていくのかということを知られてないんじゃないかなと思ってます。パインピアの所の上に 2 箇所野越しがあります。あの野越しは 2 箇所からこういうふうに受堤があって、パインピアの東に空堀があります。そこに流すようになっていっているんですね。この前も県の方と県会議員の方と一緒に見に行っただけですけども、そこにきちんと落とすようになっていっている。その受堤が外されてるんですね。パインピアの東側の用水路に行く道が切られている。ですから、そういうことをもう少しきちんと調べて、計画を国交省の方にはして頂きたい。ついては、現地で、その確認をして頂きたいというのは再三申し上げているんですけど、まだ来られていません。それと 540m³/s については過大であるということは素案の中の意見書 P6-12 に 15 番に水源連の代表の人が細かい計算をしてだしている。それに対する反論らしい反論は私はないと思っている。それと、急傾斜地の話、水没地で出ましたけども、900 箇所くらい脊振の方で崩壊しています。そのうち、認可されたのが 800 箇所くらいだと思います。山の方ではですね、そういう危険性があるんですけども、工事の対象は 5 軒家が繋がっていないとしてくれません。4 軒以下だとしてくれないんですね。避難しなさいと。それが現状なんです。ダムは下流のためでしょうけども、下流の人はもっと上流の事をきちんと認識して頂きたいというふうに思っています。15 案の中で一つ無いのがですね、昭和 28 年には道路の舗装ってされてないんです。今、全部舗装されてまして、しかも側溝が入ってますね。山側からの水が、急激に川の方に入ってきてます。つまり、あっという間に川が溢れるんですね。ですから、山側の道路側溝の中の溜枡を雨水枡に変える必要があるということです。これが今、非常に洪水が急激に膨らんできた原因の一つでもあるわけなんですね。ちなみに、玉島川だと 3 日掛かって水が溢れて、3 日掛かって引いていった。それであっという間に水が来るようになった。これは道路の問題が影響あるということも、是非九地整の中では検討して頂きたいと思っています。以上です。

【発表番号 7 番】

失礼します。私は素案のなかで書かれておりました新村ですね。神埼橋から南方に 1km くらい新村という部落がありますがそのほんとは近くの先ほど脊振の方が冒頭報告された神陽団地です。神陽団地では平成 21 年、22 年の時にいろいろ危険性を問われましたけど、今、何人かの方が報告されたなかでですね一番危険な目にあったところです。というふうに私は認識しております。そういうことで先ほど

6名の方が報告された前に国土交通省から素案についての詳細な具体的な報告いただきました。私は全く河川とか氾濫防止のためのダム建設とかいろんなことについては全く素人です。素人ながらの提案というか意見要望を今から読み上げて申し上げます。

まずですね。平成21年、22年の災害の時にそれなりに国土交通省の対応についてご批判はあるかと思えますけれど、その時、私達の神陽団地では大変手助けしていただきましたことを心からお礼申し上げます。したがって、その後の対応については、それぞれのご意見を言っていただいてよろしいかと思えますが、私達、城原川の間近に控えております66戸の神陽団地としてのですね、それぞれの思い、願い、要望を箇条書きに今から述べます。

まず第一に、平成21年水害が再び来ないようにしていただきたいということです。城原川堤防の補強については、たとえダムが着工したとしてもなかなか完成するまでものすごく時間がかかりますね。その間に早急な対応をお願いしたいということです。具体的にですね。具体的な対応は素人ですからなかなかわかりませんが専門家の方達を含めて具体的な方策を詰めていただきたい。

それから「野越し」これはご存じのように成富兵庫茂安をはじめとする先人の方達の知恵は大変賞賛しなければならないと思います。現在は住宅地が野越し周辺で、ものすごく大雨で水が溜まるわけですね。その辺について、私達、神陽団地の住民はものすごく心配している。懸念心配し、危険視しております。

それから先ほどの2項目にかかわることですけれども、現在、神埼橋南方の1km付近の西側、私達は東側、西側の方に本告牟田地区がありますけれどもそこは国土交通省が護岸補強工事とか堤防工事をしっかりしてやっている。ただ私達から言わせると東側の方も是非実施していただきたいという要望をもっております。何度も報告の方が言われたとおり、結局、地球温暖化とかの影響で特段の大雨が降ってきます。それで大雨が降り出したら私達住民は防災無線の放送をしたりしております。だから今は梅雨時じゃなくて季節外れの大雨も降るわけです。そういうことでやっぱり私達地域住民も自主防災を自分達の命を守るためにですね、避難訓練とかしていかななくてはなりません。そういうふうに自覚はしております。だけど、その以前の問題として具体的な方策をよろしくをお願いしたいということで、簡単ながら読みました。どうも失礼しました。

【発表番号8番】

みなさんこんにちは。私は川副町から来た、●●といます。よろしくお願いたします。12年位前に城原川流域委員会があった時に、公募委員として流域委員会に参加させて頂きました。その頃、治水の話が十分整理できてなかったのですが、今、不特定容量は必要ないということで、用水の話がまだ整理できてなくて、治水の話はある程度整理できたと。ただ現時点では不特定容量の水は必要ないというこ

とになっていますので、治水ダムとして整理できたんだろーと思ひますし、もう一つ、今でも安全じゃないかという話が結構ありました。ただ 21 年のあの水害を私も見て、野越しから水が越えるのを見に行きました。あの水害を見て今の川が今でも安全であるという議論はだいぶ無くなったと思ひます。どのような河川改修にしても必ず副作用があります。良いことばかりではありません。悪いことも必ずあります。ダムについていえば、間違いなくいえるこのは上流と下流の分断です。これは生態系に関しても土砂に関してもそうです。ただ穴あきダム、流水型ダムであれば、こういうダムが持つ最も大きな副作用これは無くなります。ある程度解消できます。そういう意味でこの案を私は評価したいと思ひています。その上で 3 点意見を申し上げます。

まず私、仕事柄長い間有明海に関わってきました。特にゴミ問題にも長く関わってきました。21 年の矢部川の大水害の時も現場を見に行きまして、思ひたことは圧倒的に流木が増えました。しかも根が付いている流木が。山が荒れているなど思ひました。この流木が一斉に城原川の穴あきダムに流れてきた時に、本当に閉塞しないで大丈夫だろうか。益田川とかいろんな経験を積んでおられるようですが、ここは十分に詳細設計で検討して頂いて、例えばバイパス水路を設けるなどしないと、以前とは違ひて、とにかく流木がそのまま流れてくる現象が非常に多く見受けられる。そのことについて、ぜひ詳細設計で十分な検討をお願いしたいと思ひます。

もう一点は今様々な環境影響評価をされてございます。ところが環境影響評価をされているのはあくまで河川区域内です。当然でしょう。国土交通省だから。でも川は繋がっています。実は川の環境が海に最も大きな影響を与えます。例えば有明海でいうと有明海の水は約 3 年間で川から流れてくる有明海に、川から流れてくる水と入れ替わります。ほとんど湾みたいなところ。湖みたいなところ。ですから、川の環境の影響が海にそのまま及んできます。一つの例を申し上げますと、たくさん川から砂利をとったおかげで、川は非常に水底が深くなり、川にとっては良かったけれども、その砂が有明海に流れてこなくなったことでいろんな生物が影響を受けています。でも、今の状況では有明海、海は例えば水産庁や農水省、川は国交省、森林は林野庁と完全に分かれておりまして、そこを一緒に議論するような、一緒に環境を評価できるような、そういうシステムができあがっていない。でもそれは人間の都合であって生き物には何も関係ありません。是非、森から川、海まで繋がる、そういう環境の評価をして頂きたいと思ひています。

3 点目です。今日の資料の P6-1 から地方公共団体のいろんな話し合いの結果がでています。その中で神埼市長の発言に非常に懸念を持っています。神埼市長は野越しを越すようなことがあってはならないと。市長として住民の方に安心感を与えたいという気持ちはよくわかります。ただ何度かでていました、去年の鬼怒川のように、こんな水害起きるはずが無いと思ひていた。鬼怒川にも上流にダムがあります。でも想定以上の雨が降ったら、いくらダムを造っても水害は起きます。いつかは起きると思ひていないといけないと思ひます。そういう意味で先ほどからでてた野越

しについて、できればコンセンサスが得られれば野越しを残して頂きたい。その上で受堤をやっぱり造って頂きたい。そうしないとどこから溢れるかわからない。どこが崩れるかわからないという非常に住民の方は怖いと思います。しかしこれは国交省にいても無理です。国交省は河川区域内のことしかできません。これはまさに神埼市の街づくりです。城原川は神埼市を背骨のように流れています。城原川を中心として神埼市は成り立っています。ですから地域全体の流域治水と考えるならば、それは神埼市がやるしかない。国交省にいてもこれは無理だと。以上言いたいことは3点です。

付け加えて少し意見を申し上げたいのですが、長い間、城原川について意見の対立がありました。実はこの意見の対立の中にどうしても新聞紙上に載る時に推進派と反対派それぞれの意見を載けて、いかにもそれぞれが反対して対決をしているような書き方をマスコミがよくします。でも本当はその間のグレーゾーンにいる人達がほとんどなのに、簡単な書き方をして対立をあおるというマスコミのやり方について、いろんところでやっぱり私は問題があるんじゃないかと。やっぱり現場のことをよく知って、現場の人達の意見をよく聞いて、もっとそのグレーゾーンの人達の思いも書くような形をしないと、簡単に対立の構図を造って、おもしろおかしく書くという。こういう報道のあり方についても、今後ぜひ考えてほしいとそういうふうに思っています。以上です。

【発表番号 9 番】

私はこういう所で話をすることはありませんので、下手ですがご了承願いたいと思います。

言いたいことはですね、ダムを小さくして、足りない分を遊水地にして、その遊水地をスポーツ公園化するというのを申し上げたい。遊水地を造るという場所ですね、高速道路すぐ南側、農地がありますね、あの辺が一番いいかと思いますけど、ここに遊水地を造るにしても、反対があると思うんですね、そんなところに遊水地を造って、ということになると思うんですけど、これをスポーツ公園に使う、遊水地に水が入るのは100年に1回しかない。今、野越しで28災以降ですね、野越しから氾濫して被害が出ていないですよ。62, 3年くらいですかね。63年といたら人の一生ですよ。こんな長い間野越しから被害がないということは、100年くらいはおそらく遊水地にスポーツ公園を造っても入ってこないと思います。それで、ちょっと小さいダムが上にできれば、なおさら遊水地には水は入らない。そこをですねスポーツ公園にするという提案です。巨大なダムをですよ、仁比山からちょっと上の人家に近いところに造って、今、名勝地になっている九年庵ですね、周りには仁比山神社があるし八天神社があるし、公園もあるですね仁比山、あれから丸見えですよ、私はよく紅葉の湯に入るけど、風呂からおそらくダラーと・・・、それは小さくていいよ、ダムだけで持たせる必要はないと思います。遊水地を造って、

そこをスポーツ公園にすれば、みんながそこに行って、私はゲートボールやグランドゴルフは吉野ヶ里歴史公園にいつている。あそこは1年2,000円ですけど、普通の人は400円、子供連れは土日にいっぱい来ますよ、400円と駐車場代310円ですけど、それはココだけじゃなくて久留米とか福岡からですよ。要するにスポーツの時代ですよ今は。要するに小さいダムにしてですよ、山奥ならいいですよどんな大きなダムを造っても、人家のすぐ近くだからですよ、景観的にあまり良くないんじゃないかなという気がします。それと発電所が2つありますけど、あれが掛かるか掛からないのは知りませんが、仮に掛かるとすれば、今はクリーンエネルギーの時代ですよ、仮に掛かるのであれば、やめて小さいダムにして掛からないようにした方がよい。掛かるか掛からないかは知りませんが。スポーツ公園の話ですけど、サッカー場とか、テニスとかグランドゴルフ、ゲートボール場とか野球場とか子供の遊び場、周囲は木や花を植えたりして、そこらは反対するかは知らんけど、公園ということになれば、そんなに反対は起こらないと思います。各種、イベントもできますからね。イベントするとしてもそこら辺の狭いところですからすもんね。広い遊水地とかを使ってできるとか、公式的なスポーツ大会もできます。サガン鳥栖の練習もそこでできるようになる。そういうことにすれば、活性化もでき、役立つんじゃないかと思う。今、地域活性化、地域活性化といってもなかなか簡単にはいきませんよ。だからそういうふうにして活性化になるような気がする。だから、洪水調節と公園とですよ、その金の使い方はいいと思いませんか。そういうふうな提案をさせて頂きたい。

野越しの話です。千栗土居でご存じでしょ。あれには、成富兵庫が芯に粘土を入れているんですね。芯に粘土を入れて漏水を防止するわけですよ。破堤の大きな原因の一つに漏水があるんですね、他にも今日言うのはやめておきますけど、それはもう無いんですよ千栗土居は壊されて、非常にこれは、皆さんご存じと思うけども刃金土を使って、それはもう無くなって、非常に惜しいことですよ。野越しは、流速を一回逆流させるんですね一度上流に、受堤で、上流に逆流させて流速を0にして、土砂なんかを落として、それから氾濫をさせる、成富兵庫は壊滅的な被害を抑えている。氾濫はするでしょ、床下くらいはしてもいいでしょ、農地にだっていいですよ。それを鬼怒川みたいに壊滅的な、ちょっと途中になったけど、要するに400年続いた野越しは、200年300年後の人が世界遺産に登録する使えるチャンスですよ。夢は残しておかんといかんと思いますよ。そのためには、横堤を造らないといけない。雨が降ったら氾濫して土砂被害が起こりますから、横堤を早く造ってですよ、そして逆流させて流速を0にして・・・。

【発表番号 10 番】

みなさんこんにちは。いちばん最初の方はおはようございます、でしたが、こんにちはになってしまいました。千代田から来ました●●といます。先ほど 8 番目に発表されました●●さんと同じように私も城原川の流域委員会に地域の代表として参加させていただいた者です。そのときは本当に無責任で城原川については何も知らないまま参加していたのが現状でした。その後、ずっと城原川に係わってきたという状態です。まず流域の安全のために、本当にいろんな対策を考えていただいている国や県に対して、本当に心から感謝したいと思います。この方達はいろいろとお話を聞く中で、心強い味方だというふうに感じております。やっぱり今から先の大災害に対して、命を守るというのが一番大きな必要なことです。その上で今回のダム案についてはいろいろな疑問があります。まずダム上流の山間部、ここはちょっと雨が降ると何百もの土石流が大小発生する場所（脊振地区）ですが、その安全対策はダムによっては防ぐことはできません。また下流域の方は、有明海の干満の差、これを大きく受けて水はけが悪かったり、排水がスムーズにできない場所ですが、ここで一番怖いのは高潮です。これに対してダムは有効ではありません。こういう地域よっての安全の差が、上流、下流だけではなくて平面に広がる地域でもいろいろあります。その土地、その土地、その地域、その地域の非常に危険なものがあるのです。それを一律でダムで解消することはできない。そういう意味では不平等な公共事業かと思えます。またダムは穴あきにしろ、大雨の時に水を貯めます。こういう負のエネルギーを貯めるということの怖さ、危険性も、なかなか説明を聞いても納得がいかない部分があります。そして私たちが大きく感じるのは、ダムに対する違和感。これは何だろうと思うと、それは自分たちのふるさとが壊れていく喪失感、アイデンティティーが壊されるような思い、そういうものにどうしても引っかかってしまう。それともう一つ、細かい説明はダムの素案ではされていませんが、突き詰めて考えていくと恐らく全ての農業用水などは合口されて、一つか二つかのかんがい用水の口になっていくだろう。そうすると、農家はそれに対してお金を払わなければいけないことになるだろう。農家の負担は了解されているのだろうか。そういう疑問も湧いてきます。15 年間かけてダムを造るとなった時に、その間は流域は無防備でいなければならない。河川整備が先ず先じゃないかという思いは、以前市の議会の方でも可決されたことだったと思えます。私たちはこういういろんなことに対して、パブリックコメントを出して国にも問いかけました。その一番の代替え案として出したのが流域治水という考え方です。国がいろいろ 1/50、1/150 で対策を考えているのは、その命を守る責任の大きさからだと思うんですが、1/50 を考えたら、その責任はそこの方たちはもう終わりです。そして次の方たちが、1/150、690m³/s の事を考えられるでしょう。そのことを考えたらその方たちも終わりです。でもそれ以上の洪水に対して、それ以上の災害に対して、私たちは子や孫や子々孫々に至るまで、ここに住んでいる責任が私たちにあると思えます。だからゆっくり、じっくり考えて行かなきゃいけないという問題を自分自身にも問

いかけています。技術者の専門家として、河川の専門家として、私たちが提案している城原川の流域治水、佐賀平野の流域治水というものを真剣に考えていただけないでしょうか。野越しのことが先ほどからでていますが、この野越しは水を出すだけという施設ではありません。パインピアの方が先ほど恐ろしいと言われましたが、私も川の側に住んでいて小さい頃から何度も恐ろしい川を見てきました。野越しはパインピアを守ります。しっかりとした野越しの整備さえされれば、しっかりと地域を守ってくれます。専門家に任せれば良いというお話もありましたが、専門家の方たちで野越しを高く評価している方たちもいっぱいいらっしゃいます。そういう方たちのお話も聞いていただきたいなと思います。私たちのこの城原川というのは日本の中でも先進的な川になっています。それは減災と言った考え方が広く行き渡っているからです。この宝物をどうにか生かした、知恵を生かした地域にちりばめられた、この宝を道しるべとして流域治水というものを再度考えていただければというふうに思っ私意見発表を終わります。